

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No.9

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

充実する本学の地域連携活動

コロナ禍でもオンライン等を利用し様々な活動が実施された。[対象期間：2020.9～2021.3]

【世界食糧計画(WFP)が2020年ノーベル平和賞を受賞】

2020年度のノーベル平和賞に、飢餓のない世界を目指す国連機関、世界食糧計画(WFP)が選ばれた。

本学の「ブラウンライスボランティア」(通称ブラ★ボラ)は、WFPを支援する認定NPO法人 国連WFP協会を通じて、飢餓で苦しむ世界の子どもたちを救う「学校給食プログラム」に貢献しており、このニュースに祝福の声を挙げた。

本学は2018年5月に国連WFP協会と連携協力に関する協定を締結している。



大学 HP より

【教育学科】

図画工作藤井ゼミ 3年生が「ハートでつなぐ ひと・まち・夢」と題して阪神電車大阪梅田駅でアート展

本学と包括連携協定を結ぶ阪神電鉄とともに梅田駅をハートで彩った。

コロナ禍で疲弊する今だからこそ、各自のハートを大切に、希望を持って乗り越えたいという願いを込めて取り組んだ。



大学 HP より

4番線メイン展示は、ハートのオブジェや3Dトリックアートを、1番線壁面には武庫川女子大学 附属幼稚園・附属保育園の園児、短大幼児教育学科1年・大学教育学科2年・美術部、図画工作 藤井ゼミの3、4年生、さらに武庫川団地前駅前の高須の森保育園の園児、阪神電車大阪梅田駅の皆さんの合計300点近いハートやツリーの作品をポスターとして掲示した。

神原ゼミの3年生が「第69回近畿数学教育学会例会」でポスター発表

2月6日、「第69回 近畿数学教育学会例会」(主催：近畿数学教育学会)でポスター発表「分数概念を促進させる支援の方法に関する研究：児童Aと児童Bに対して行った個別支援を通して」を行った。

今年はコロナ感染症対策として、Zoomでの開催。神原ゼミではこの6年間、近隣の小学生に対して算数学習の支援を無料で行っている。

今年度はコロナ禍でZoomによる遠隔の学習支援を5月から週1回行ってきた。今回の発表は、後期10月から1月までの間の学習支援において、児童の算数のつまづきと支援方法を検討した内容を発表した。

吉井ゼミの学生が尼崎市の子ども食堂で「防災イベント」を実施

尼崎市の助成を受けて、子どもたちに「防災」を伝えるために、2月18日に「防災イベント」を実施。吉井ゼミでは、東日本大震災以降、継続して防災について活動を続けている。

尼崎市の子ども食堂「モコモコ倶楽部」で、8人の子どもたちが参加し、防災すごろくや防災バッグ作りで防災について学んだ。



大学 HP より

【健康・スポーツ科学科】

松本ゼミが、阪神電車 鳴尾・武庫川女子大前駅で階段利用促進の研究を実施

本学と阪神電鉄との包括連携協定のもと、10月20日から鳴尾・武庫川女子大前駅で、ナッジ(人々に強制なしに望ましい行動に誘導するシグナルや仕組み)手法での階段利用促進の研究を開始。

公益財団法人健康・体力づくり事業財団の研究助成を受け、日常の手軽な運動になる階段利用を促進すべく、ナッジを使う研究に取り組んでいる。今回は鳴尾・武庫川女子大前駅のホームに上がる階段に、若い女性向けのメッセージとして健康促進やダイエットを意識した言葉を貼付しナッジとした。

10月20日から3週間「階段は無料のフィットネス!」「おうち時間が増えた今こそ、階段!」「階段で、アクティブライフええんちゃう?しらんけど」など健康や運動メッセージを階段に貼付。その後は、節電協力を訴えるメッセージを表示した。



大学HPより

穂原ゼミの学生が、甲子園エリアの情報を取材、SNSで発信し甲子園地域の活性化に貢献

阪神電鉄 沿線価値創造推進室と西宮市との産学官連携の取り組み企画。学生6人が、甲子園エリアのグルメや絶景スポットなどの情報を取材、SNSで発信して甲子園地域の活性化に取り組んだ。

第一回は10月、企画に協賛する㈱モンベルのウェアと自転車で、甲子園エリアのスイーツ店や武庫川サイクリングロードを取材。この様子は阪神電鉄の沿線で配布されている「ホット! HANSHIN」にも掲載。今後は、阪神電鉄が開設したSNS「甲子園スタイル」でも情報を発信していく。



大学HPより

【情報メディア学科】

「広告メディア演習」で作成したみなと銀行のCMが全102店舗で放映

みなと銀行のCMが、みなと銀行の全102店舗で9月末まで放映された。

「みなと銀行」の協力を得て、出演や撮影、編集もすべて自分たちでこなし、公開に支障がないよう、音楽などの著作権にも配慮しながら伝えたいことを30秒の作品に込めた。

同銀行では全作品を社内で閲覧し、「一生懸命に作ってくれた気持ちにこたえたい。お客さんにも待ち時間に楽しんでもらえるのでは」と、8月24日から9月末まで、店頭やロビーで放映された。



大学HPより

地元企業のCMづくりに挑戦する「広告メディア演習」最終発表会を実施

2020年度、2年生が地元企業のCMづくりに挑戦する「広告メディア演習」の最終発表会が行われた。2020年度は「千鳥屋宗家」(本社 西宮市)の協力を得て、同社の代表銘菓「本千鳥饅頭」をテーマにCM動画を作成。

コロナ禍の中、編集技術習得機会の不足や、オンラインでの中間発表等、制約が多い中、学生たちはグループで企画から撮影、編集までこなしした。

この授業はPBL(プロジェクトベースドラーニング)の先駆けとして2011年度から始まり、これまでに大阪市水道局、白鷹、みなと銀行など産官とコラボレーションしてCMを制作している。

大森ゼミの3年生が「全国地域ブランド総選挙」で優秀発信賞、インスタ賞、PR動画賞をトリプル受賞

2月6日、特許庁の「全国地域ブランド総選挙」のオンライン決勝戦に進出し、「優秀発信賞」「インスタ賞」「PR動画賞」をトリプル受賞した。

「全国地域ブランド総選挙」は、学生と地域ブランド団体がチームを組んで地域団体商標の商品やサービスの魅力を発信し、新ビジネスのアイデアやPR方法などを競う。今年は全国から大学や高校など15チームが参加した。

大森ゼミでは尼崎商工会議所とタッグを組み、地域団体商標「尼崎あんかけチャンポン」の認知度アップに取り組んだ。学生たちは加盟 23 店舗を取材。店の人に話を聞き、実食して、見た目や味を確かめ現状を分析。具材や店主の秘技で強さを競うカードゲーム、マスクチャーム等のオリジナルグッズを作ってインスタグラムで発信し、270 以上のフォロワーを集めた。PR 動画では、少年 2 人がカードゲームで戦う様子で、おいしさと店主の熱意を伝えた。

「定義が緩すぎる」という弱点を克服するため、汁の色や彩度を数値で定義し、器や名前を統一、共通する野菜を必ず加えるなど、地域ブランドとしてのフレームづくりを提案した。



大学 HP より

【 食物栄養学科 】

「ふれあい昼食会」が鳴尾公民館で 8 か月ぶりに再開し、食物栄養学科の学生がボランティアで調理や配ぜんに参加

ふれあい昼食会は、西宮市社会福祉協議会の活動で、主に一人暮らしの高齢者を対象に地区ごとに公民館などで月 2 回昼食を楽しむ機会を提供する事業。

本学の栄養科学研究所が鳴尾地区の「ふれあい昼食会」と連携し、高齢者の健康増進を支援している。

今年は新型コロナ禍で、昼食会を 2 月から市内全域で中止していたが、10 月 5 日に鳴尾公民館で様々な感染防止対策を講じて再開し、食物栄養学科の学生 3 人がボランティアで調理や配膳に参加した。

メニューはとりそばの 5 色丼、酢の物、お味噌汁、香の物、白玉あんみつ。高齢者 38 人からは「再開を待っていた」「中止の間は寂しかった。久しぶりに皆と会えてうれしい」と、喜びの声が聞かれた。



大学 HP より

食物栄養科学部 高橋研究室が栄養成分の分析に協力した野菜「きらきらベジ」の販売開始

日本山村硝子(株)(尼崎市)の植物工場栽培野菜の栄養成分分析に、高橋研究室が協力。栄養機能食品／栄養機能性食品と表示した「きらきらベジ: サラダケール」(機能性表示食品: ビタミン C)と、「きらきらベジ: ぎゅっとルテイン きらきらケール」(機能性表示食品: ルテイン)の販売が始まった。

高橋研究室は「『ぎゅっとルテイン きらきらケール』は、完全閉鎖型植物工場では日本初の生鮮の機能性表示食品で、目の調子が気になる方にはうれしいルテインが含まれ、『サラダケール』は、一袋でビタミン C を 30~90mg 含む生鮮の栄養機能食品で、お肌や健康が気になる方におススメ。また、ビタミン C は抗酸化成分としても有名。皆様の健康に貢献していきたいと考えています」とコメントしている。

1 月の収穫・包装分からは、「武庫川女子大学との共同開発商品です」と表示したラベルを貼って、尼崎にある工場から出荷、販売される予定。



大学 HP より

【 薬学部 】

安心安全な教育環境を守るため、薬学キャンパスに新型コロナ感染を調べる PCR センターを設置

新型コロナウイルス感染拡大に対する学生や教職員の不安解消、新しい生活様式に沿った安心安全な教育環境の確立のため、11 月 2 日に薬学部のある浜甲子園キャンパスに PCR センターを設置。

無症状者を対象に、12 月初旬から学外実習等で陰性証明を要するなど緊急性の高い学生、教職員を対象に稼働。その後、全学に向けて本格稼働する予定。

大学で PCR センターの開設は全国的にも数例。

篠塚学部長は「いつでも何度でも検査が受けられることで、不安払しょくに役立ててもらいたい。いずれは地域の団体などにも対象を広げ、地域の安全安心にも貢献したい」と話した。

【 経営学部 】「実践学習報告シリーズ」

実践学習は学生が企業や地域の人たちと協働する経営学部ならではの授業。

4年間で少なくとも4つのプロジェクトに参加する。学生はインターンシップやフィールドワーク、サービスラーニングを通して実社会と出会い、課題解決力を培っている。

「新型コロナウイルスの影響で落ち込む西宮の経済を元気にするプロジェクト」

西宮市及び商工会議所との連携取組。市内の飲食店等を訪問し、感染症対策を確認した後、市が作成したステッカー「感染症対策やっています！」を配布。併せて、新型コロナウイルス感染症の影響で困っていることや、希望する支援対策等の調査を行い、課題分析、解決方を西宮市商工会議所に提案した。



大学 HP より

阪神電気鉄道の QR 乗車券実証実験に参加

阪神電鉄は、より便利で付加価値が高い QR 乗車券導入を検討しており、それを利用者の立場で評価する。より良いサービス創出を目的とし梅田、野田、尼崎、西宮の4駅のQRコード読み取り機付改札機で、出入構を体験しその成果を発表した。

小学生向けプログラミング教室体験のイベント実施

10月10日に、子供向けプログラミング教室 MaKids を運営する株式会社 S&F PARTNERS で、ワークショップ運営の基礎を学び、子供用プログラミング言語の体験・研修を受けた後、教室のサポートを体験。

10月25日に開催された大丸須磨店『小学生向け「かんたんプログラミング教室」』では、学生目線で考えたプログラミング体験イベントを実施した。



大学 HP より

『阪神 KAN お散歩マップ』を体感し、「阪神間モダニズム」について情報を発信

阪神電鉄が発行する『阪神 KAN お散歩マップ』を元に、学生が、10月から11月にかけて実際に阪神間を散策し SNS による魅力発信や、マップの改善点をの報告で、今後のマップ制作に貢献。

実際に訪れた場所で撮影した写真を阪神間連携ブランド発信事業の公式 Instagram で、週1回程度投稿して学生自身が「阪神間モダニズム」について発信した。



大学 HP より

「コワーキング図鑑」の制作に参加

大阪・東梅田のコワーキングスペース「ONthe UMEDA」(㈱まなれば)と連携し「コワーキング図鑑」を制作。

10月からの本プロジェクトは、20回以上のミーティングを Zoom や現地で実施。学生たちは6人のコワーカーと面談し、キャラクター化につながる情報収集と整理を行った。現在も、LINE スタンプの公開などを目指してミーティングを継続中。



大学 HP より

変えます！にしのみや。市への提言 2020」をまとめ、西宮市の石井市長に直接報告

西宮市と連携する実践学習活動「変えます！にしのみや。市への提言 2020 ～西宮市の事業系一般廃棄物の減量を目指して～」をまとめ、1月29日に石井市長に直接報告提言した。

学生たちは、西宮市西部総合処理センターのごみ質組成精密分析業務を見学。担当者の講義を受け、データを収集・分析、市内事業者の見学と意見交換会に参加し、現状やデータを読み解き、事業系の廃棄物を減らすためどこにフォーカスすべきかを他の都

市などと比較もしながら検討した内容や、具体的に考えた施策を資料「変えます！にしのみや。市への提言 2020 ～ 西宮市の事業系一般廃棄物の減量を目指して～」にまとめ、市長に直接伝えた。

市長は「1年生の発表ということだったので、難しいテーマに対してどの程度の提言がもらえるだろうと正直思っていたが、非常に素晴らしかった。考察やアイデアの中に、経営学部として学んだことや女性ならではの視点が活かされていて、参考になりました。今後ますます、こういった場面で女性の視点は重要になると思うし、武庫女に経営学部ができた理由も今回のことで納得した」と今後への期待を込めて話した。



大学 HP より

あまがさきキューズモールで子ども参加型のイベント「おつかいチャレンジ」を開催

2月20日、JR 尼崎のキューズモールで子ども参加型のイベント「おつかいチャレンジ」を開催。

「(株)ここにある」との実践学習として、昨年夏にスタート。週1回のミーティングと SNS の情報共有や意見交換を重ねてきた。当日必要な40人以上のボランティアスタッフを揃え、同キューズモール担当者との折衝等、一連の準備と運営を学生自身が行った。

コロナ禍でも、安全に運営できるように子どもたち個々の買い物をスタッフが離れたところからサポートをするなど、工夫した。

担当者からは「大変人気のイベントなので、今後ブラッシュアップして、定期イベントとして開催できれば」と評価された。



大学 HP より



【 共通教育部 】

学び発見ゼミ」で学んだ学生が、TOWERmini ららぽーと甲子園店の売場作りに協力

共通教育科目「音楽を通してみる世界（大学 学び発見ゼミ、共通教育部 長谷川裕紀講師）」の受講生が TOWERmini ららぽーと甲子園店で、NiziU の CD デビューに際し同店からの依頼で、CD リリースに合わせて、NiziU と同世代の学生が顧客視点で考えた売場作りに協力。

リモートで話し合いを重ねながら、店内装飾のアイデアを出し合い「メンバー紹介カード」、「CD デビューまでの軌跡紹介」、「お祝いメッセージボード」、「デビューまでのカウントダウンを Twitter で発信」など様々なアイデアが採用され、店内を飾った。

【 ひょうご理系女子未来塾 】

ネスレ日本株式会社との共同企画「Create! プロジェクト」を開始！

本学が主体となり理系女子の育成を支援する「ひょうご理系女子未来塾」の活動の一環として、若い人達にもっとコーヒーに関心を持ってもらい、コーヒーの新しい可能性を追求することを目的としてネスレ日本(株)との共同企画が始まった。

本プロジェクトに参加した経営学科の「実践学習科目」の受講生15名と、情報メディア学科 和泉ゼミ3年生10名はグループに分かれ、新商品やサービス、新しい売り方や訴求方法をディスカッションし、1月中旬の最終発表会でプレゼンテーションする。その活動内容や提案アイデアを、動画やポスターにまとめ、2021年2月開催の『武庫女スマイルフェス』で発信。



大学 HP より

地域・自治体等との連携

「第3回武庫女スマイルフェス」を“WEB”で開催

本学と三井ショッピングパーク「ららぽーと甲子園」の合同イベント「第3回 武庫女 スマイルフェス」を、2月1日から3月31日まで『ららぽーと甲子園特設サイト』において公開し、様々なコンテンツをアップ。2月15日～21日は館内展示も実施した。

例年は同施設内で、学生たちが参加型のプログラムやワークショップ、展示を行っているが、今回はコロナ防止対策でWEBと展示のみの開催とした。



大学 HP より

尼崎商工会議所と包括連携協定を締結

12月14日、両者が持つ社会的、人的資源の交流を図り、地域の持続的な発展と教育・研究の向上を目的に、本学メディアホールで調印式を行った。

吉田会頭は「若い知恵と発想をまちづくりに生かすとともに、私たちの4800を超える会員企業を活用し、学生の活躍の場を広げていただきたい」、瀬口学長は「調印を機に、大学ならではの知見をご提供したい。独創的な企業が数多く、学生に刺激をいただけると期待しています」と話した。



大学HPより

宝塚市と包括連携協定を締結

2月15日、宝塚市役所において、教育・研究をはじめ、文化・芸術、スポーツ、産業の振興、まちづくりなど8項目で相互に協力し、地域の活性化と人材育成に寄与することをめざして調印式を行った。



大学 HP より

同市には宝塚歌劇団、手塚治虫、日本一の生産量を誇るダリア、宝塚発祥の商品など様々な魅力あるコンテンツが多い。中川市長は「協定締結は、連携を一つ一つ実り多いものにする大きなポイント。幅

広い分野で学ぶ若い人のアイデアと力を借り、また市は積極的に連携の場を作り、明るい未来をともに作っていききたい」と言い、瀬口学長は「地域貢献を通して学生に刺激を与えたい。多くの学生、教職員が居住し、市域を流れる“武庫川”でも繋がる宝塚市を側面から支える」と話した。

兵庫工業会と包括連携協定を締結

2月22日、本学メディアホールで調印式を行った。

本学は情報メディア学科や経営学部を筆頭に、社会と繋がって学びのフィールドを広げており、会員企業で活躍する卒業生も多い。連携協定締結により、インターンシップ先の提供や本学の教員の技術開発支援などの交流が活発化すると期待される。

宮協会長は「県内のものづくり企業を取り巻く環境は厳しいが、2019年度から女性活躍の推進に取り組んでいる。本協定がものづくりの振興と若者の可能性の拡大に繋がれば」と言い、瀬口学長は「教職員、学生、企業が連携し、ものづくりや女性の就業促進に成果を生むことを期待している」と、話した。



大学 HP より

尼崎市と包括連携協定を締結

3月2日、尼崎市役所において、地域コミュニティの活性化や生涯学習及び健康・スポーツの増進、くらしやすい住環境・都市機能の形成などに寄与することをめざして調印式を行った。

稲村市長は協定締結に際し、「すでに武庫川女子大学とは様々な協力を行っているが、正式な協定締結を心強く思っている。尼崎市には失敗を恐れずに挑戦できる風土が根付いており、女性がリーダーとなって経験ができる実践的な学びを重ねてほしい」と話した。



大学 HP より

ウメダ FM 新コーナー「武庫女スポーツ GO LAVYS ! GO !」がスタート！

大阪・梅田の「ハービス PLAZA」から放送されるコミュニティ FM「ウメダ FM Be Happy! 789」で、運動部を紹介する新コーナー「武庫女スポーツ GO LAVYS ! GO !」が 10 月 14 日スタート。

番組は毎週水曜日に放送。毎回、運動部を順に取り上げ、各部の紹介や番組スポンサーでヨーグルトや乳酸菌飲料等のメーカー「日本ルナ(株)」の商品を通じ、体調管理や日々の食生活等について語る企画。

番組の取材や収録は、武庫女ステーションキャンパス (MSC) にあるスタジオや本学のスポーツ施設で行い、進行は情報メディア学科の学生が担当する。

鳴尾マネジメント連絡会「なるお通信 Vol.1」発行

鳴尾・武庫川女子大前駅周辺の活性化、環境の維持・向上のために発足した鳴尾エリアマネジメント連絡会 (エンリッジョン、阪神ステーションネット、阪神電鉄、みなと銀行、武庫川学院、ライフイノベーション、ライフコーポレーション) が、発行する「なるお通信」Vol.1 が発行された。鳴尾の魅力を発信するミニコミ誌として、年 4 回、阪神電鉄の各駅や鳴尾・武庫川女子大前駅周辺で配布される。

2020 年度地域連携協議会で 6 件の連携事例が報告

2020 年度の地域連携協議会を 18 日、公江記念館大講義室で開催。毎年、本学の地域連携事例を発表しており、今年はオンラインと対面で実施し、地域や地元企業からも多くの視聴があった。

鳴尾いちごをふるさと教育の教材として活用する取り組み (教育学科・酒井達哉准教授) や、オリジナルの漢字キャラクターを使った動画コンテンツの開発 (日本語日本文学科・設楽馨准教授)、「尼崎あんかけチャンポン」を全国区に広める情報メディア学科の活動 (大森いさみ教授) 等、6 件が報告された。教育学科の高木史人教授は、昔話が方言や昆虫、野草など地域と密接に関わるので、これを科目連携的な学びにつなげ、地域活性に役立てることを提案。健康・スポーツ科学科の北島見江教授は、地域の高齢者に向けてオンラインで運動支援を実施した結果、「支援前後で運動習慣が付き、気持ちが明るくなるなど、幸せ度がアップした」と、報告した。

音楽学部の有志でつくる浜甲カンタービレからは、コロナ禍で中止していた参加型音楽会等の活動を人数を制限し、生演奏を減らすなど感染防止を図りながら一時再開したことや、リモート演奏動画をホームページにアップしていることなどを紹介した。

「第 5 回 研究成果の社会還元促進に関する発表会」を“WEB”で開催

教育研究社会連携推進室が主催する「第 5 回研究成果の社会還元促進に関する発表会」を 2 月 12 日 WEB で開催し、教員 8 組が研究成果を発表した。

緊急事態宣言発令中の今回、初めてオンラインでの開催となった。

発表内容の冊子版は本学「教育研究社会連携推進室HP」でも公開する。

《発表内容》

◆軽症糖尿病性末梢神経障害患者の歩行における足圧と下腿筋電図の特徴

健康・スポーツ科学科 伊東 太郎教授

◆凝灰岩の材料特性・熱水分特性と劣化性状に関する研究

建築学科 宇野 朋子准教授

◆COVID-19 による地域高齢者の日常生活への影響と健康課題の探索

食物栄養学科 大滝 直人准教授

◆丹波市の林業・製材業従事者の事業意識に関する調査 —林業・正座行従事者の課題認識と今後の事業展開の意識—

教育社会連携推進室 大坪 明特任教授

◆新型コロナ対応における地方公共団体のデータ解析 —神戸市の対応事例に見る自治体データ戦略の行方—

経営学科 金崎 健太郎教授

◆漢字キャラクターの子ども向け動画コンテンツ開発 —動画配信による学習契機を拡散する可能性について—

日本語日本文学科 設楽 馨准教授

◆高齢者小規模共同居住における長期居住の実態と課題 —全国における萌芽的事例の検証から—

建築学科 宮野 順子准教授

◆野球聖地の生活質感とこれからの展望 —住環境アンケートの概要 (2020 年 1 月～12 月甲子園番町街全世帯配布の回収分より) —

生活美学研究所 森田 雅子所長

◆

連絡先：本館 5 階 社会連携推進課 中村・大谷
内線：6210、6212 /

E-mail：collaboration.mukogawa-u.ac.jp